

# 「第6回男女の生活と意識に関する調査」結果（概要）

## 調査は、国民男女の生活と意識について知る目的で行われました

現在の日本における、性や妊娠・避妊・中絶や少子化などに関する男女の意識と行動がいかなるものかを、さまざまな側面から分析することを目的として調査研究を進めて参りました。2002年を第1回目として2年毎に実施し、今回で第6回目を終了しております。

質問の主な内容を以下に列挙しました。

- (1) 日常生活や考え方について
- (2) 結婚や子育ての意識について
- (3) 性の意識や知識について
- (4) 対象者自身の性行動について
- (5) 初めてのセックス（性交渉）について
- (6) 現在の避妊の状況について
- (7) 低用量ピルについて
- (8) 人工妊娠中絶について
- (9) 国の少子化対策について

## 調査は、層化二段無作為抽出法という方法で行われました

「第6回男女の生活と意識に関する調査」を行うにあたっては、個人のプライバシーに十分留意しつつ、層化二段無作為抽出法という調査手法を用い、平成24年9月1日現在満16～49歳の男女個人3,000人を対象として行われました。調査は平成24年9月13日（木）～9月30日（日）に実施。その結果、長期不在、転居、住居不明によって調査票を手渡すことができなかったものを除く2,687人のうち有効回答数は1,306人（男性610名、女性696名）、48.6%でした。回答者の平均年齢は男性34.1歳、女性34.5歳。

層化二段無作為抽出法とは、まず、①全国の市区町村を都道府県を単位として11地区に分類し、さらに、②各地区においては、都市規模によって大都市、人口20万人以上の都市、人口10万人以上の都市、人口10万人未満の都市、町村の5層に層化します。その上で、区・都市規模別各層における推計母集団数の大きさにより、それぞれ3,000の標本数を比例配分し、各調査地点の標本数が13～24になるように決定しました。次に、抽出の1段階目として、各層内で国勢調査区より割り当てられた地点数を無作為に抽出し、2段階目として各地点を管轄する自治体の役場で住民基本台帳から対象者個人を抽出しました。調査は、平成24年9月13日（木）から9月30日（日）の期間、抽出された対象者宅に調査員が訪問し、調査票を手渡し、その後回収に何うという方法（調査員による訪問留置訪問回収法）がとられました。

なお、本調査を実施するにあたっては、社団法人新情報センター研究倫理審査委員会に申請書を提出し、8月24日に開催された同委員会において承認されております。

### 回答者の性別と年齢分布

	総数	16～ 19歳	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳
総数	1,306	105	144	164	185	251	266	191
	100.0	8.0	11.0	12.6	14.2	19.2	20.4	14.6
男性	610	47	65	85	97	110	115	91
	100.0	7.7	10.7	13.9	15.9	18.0	18.9	14.9
女性	696	58	79	79	88	141	151	100
	100.0	8.3	11.4	11.4	12.6	20.3	21.7	14.4

回答者の年齢 総数34.3歳 男性34.1歳 女性34.5歳

## 調査は、一般社団法人日本家族計画協会が独自に行いました

2002年からスタートした「男女の生活と意識に関する調査」は、2010年までの5回は、厚生労働科学研究費補助金による研究事業の一環として行われてきましたが、今回の調査は一般社団法人日本家族計画協会が独自に実施したものです。国からの具体的な支援がないこともあって、調査対象となった市区町村における住民基本台帳閲覧が困難であっただけでなく、調査を依頼した国民からも十分な協力が得られず、回収率が50%を割る結果を招いたものと推測されます。

以下、今回の調査で、興味ある結果を得た、いくつかの話題に絞ってご紹介しましょう。

## 国の少子化対策については国民の支持率が高い

今回の調査では国が実施している代表的と思われる少子化対策（①妊婦健診の公費負担、②出産育児一時金制度、③不妊治療に関する経済的負担の軽減、④保育所待機児童の解消、⑤男性の育児休業の取得促進）について国民の意見を求めたところ、「有効である」との回答が66.8%～86.7%であり、高い支持を得ていることがわかりました。

支持率を性別年齢階級別にみると、制度の恩恵を直接受けるとされる方々で高い傾向にあり、例えば、①②では20～34歳の女性で9割を超えているものの、①については15～19歳の男女ともに7割程度。支持率が7割近くあるとはいえ、①③④では男女差が顕著となっている。とりわけ、③の評価が男性では低い。⑤については、男性61.1%、女性71.7%の支持率であるが、男性の35歳以上は5割程度とあらゆる制度の中でもっとも低い。

### 国の少子化対策についての意見

	妊婦健診の公費負担(14回程度受けられる)	出産育児一時金制度(出産に際して原則42万円支給)	不妊治療に関する経済的負担の軽減	保育所待機児童の解消	男性の育児休業の取得促進
総数	1,306	1,306	1,306	1,306	1,306
とても有効である	53.4	58.2	45.7	48.2	37.2
ある程度有効である	29.8	28.5	29.4	29.0	29.6
どちらともいえない	10.0	7.6	16.5	14.5	19.5
あまり有効ではない	2.5	1.8	3.1	3.4	7.2
まったく有効ではない	1.1	1.1	2.1	1.8	3.4
無回答	3.1	2.9	3.1	3.2	3.1
(再掲)有効である	83.2	86.7	75.1	77.2	66.8
(再掲)有効でない	3.7	2.8	5.2	5.1	10.6

## 結婚や子育てに対する考え方

男性の生涯未婚率が20%を超えたことが話題になっています。婚外子率が極めて低率であるわが国の場合、子どもは結婚してから持つものとの意識が強いこともあって、未婚率の上昇は、出生率の低下だけでなく、将来の社会保障制度への影響も懸念されています。少子化対策への展望を考えるために、今回は、結婚について深く問いかけてみました。

現在の結婚状態をみると、「未婚」が42.3%（男性46.1%、女性39.1%）。男性では「40～44歳」20.9%、「45～49歳」15.4%、女性ではそれぞれ14.6%、15.0%となっています。過去3回を並べてみますと、男性の35～44歳で未婚割合が増加傾向にあります。

未婚、離婚、死別と回答した方に、結婚したいと思うかを聞くと、女性の場合、「するつもりはない」と「わからない」の割合が離婚経験のある女性55.9%（男性28.6%）、死別経験のある女性100%（男性0%）と女性が男性に比べてその割合が極めて高いことがわかります。逆に未婚者では、

### 調査回答者の未婚割合の推移

(北村邦夫：「男女の生活と意識に関する調査」2008、2010、2012)

	2008年	2010年	2012年
男性	42.0	47.2	46.1
16～19歳	97.5	100.0	100.0
20～24歳	95.6	96.9	90.8
25～29歳	60.7	68.2	76.5
30～34歳	40.9	42.7	40.2
35～39歳	29.0	29.3	30.0
40～44歳	16.4	18.4	20.9
45～49歳	15.2	18.3	15.4
女性	31.9	36.0	39.1
16～19歳	95.9	98.5	98.3
20～24歳	90.9	85.0	89.9
25～29歳	55.0	58.6	59.5
30～34歳	29.0	27.1	35.2
35～39歳	14.0	19.8	20.6
40～44歳	9.9	15.2	14.6
45～49歳	2.8	7.4	15.0

「するつもりはない」「わからない」が男性 21.7%、女性 15.8%という結果でした。

「結婚についての利点」（結婚の経験がない方はイメージで）を聞くと、男女ともに、「自分の子どもや家庭をもてる」がトップで88.2%（男性85.9%、女性 90.2%）、次いで「愛情を感じている人と暮らせる」が続きます。男性では、利点が最も低いのが「経済的に余裕がもてる」、女性では「性的な充足が得られる」となっています。

「子育ては楽しい（楽しかった）と思うか。子育て経験のない方はイメージで（○は1つ）」の間に、53.9%（男性 64.3%、女性 63.5%）が「はい」と回答し、男女ともに子育てを経験していると思われる35歳以上で「はい」が高率に、若年では「どちらともいえない」の回答が目立っています。

婚外子率の低いわが国にあっても、「結婚していないカップルが、子どもをもつこと」に対して、「抵抗がない」38.8%（男性 42.0%、女性 36.1%）、「抵抗がある」59.6%（男性 56.2%、女性 62.6%）で肯定的な意見が意外と多いことも注目されます。男性では「抵抗がない」割合が概して若い世代に高く、一方女性では「25～29歳」で25.3%と最低となっています。

**あなたにとって結婚にはどのような利点があると思うか。  
結婚の経験がない方はイメージで。**

「とても利点がある」「ある程度利点がある」と回答した割合

（北村邦夫：「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012）

	全体	男性	女性
経済的に余裕がもてる	43.8	28.0	57.6
社会的信用を得たり、周囲と対等になれる	55.6	56.4	54.9
精神的な安らぎの場が得られる	76.6	78.5	74.9
愛情を感じている人と暮らせる	82.4	82.8	82.0
自分の子どもや家庭をもてる	88.2	85.9	90.2
性的な充足が得られる	43.8	50.8	37.6
生活上便利になる	50.3	52.8	48.1
親から独立できる	48.9	45.6	51.9
親を安心させたり周囲の期待にこたえられる	68.5	65.7	70.8

**あなたは、子育てを楽しい（楽しかった）と思うか。子育て経験のない方はイメージで（○は1つ）**

（北村邦夫：「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012）

	合計	はい	いいえ	どちらともいえない	不明
該当数	1,306	63.9	5.1	30.2	0.9
男性	610	64.3	6.4	28.2	1.1
16～19歳	47	55.3	10.6	34.0	-
20～24歳	65	52.3	7.7	38.5	1.5
25～29歳	85	57.6	11.8	28.2	2.4
30～34歳	97	68.0	3.1	26.8	2.1
35～39歳	110	70.0	6.4	23.6	-
40～44歳	115	66.1	7.0	26.1	0.9
45～49歳	91	70.3	1.1	27.5	1.1
女性	696	63.5	3.9	31.9	0.7
16～19歳	58	55.2	8.6	36.2	-
20～24歳	79	59.5	6.3	32.9	1.3
25～29歳	79	57.0	7.6	32.9	2.5
30～34歳	88	56.8	4.5	37.5	1.1
35～39歳	141	64.5	3.5	31.9	-
40～44歳	151	69.5	1.3	28.5	0.7
45～49歳	100	72.0	-	28.0	-

**あなたは、結婚していないカップルが、子どもを持つことに対して、どのように感じますか。（○は1つ）**

（北村邦夫：「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012）

	合計	抵抗感が まったくない	抵抗感が あまりない	抵抗感が 少しある	抵抗感が 大いにある	不明	(再掲)抵抗 感がない	(再掲)抵抗 感がある
総数	1,306	14.0	24.8	43.5	16.2	1.5	38.8	59.6
男性	610	16.9	25.1	39.3	16.9	1.8	42.0	56.2
16～19歳	47	12.8	29.8	40.4	14.9	2.1	42.6	55.3
20～24歳	65	16.9	26.2	32.3	18.5	6.2	43.1	50.8
25～29歳	85	22.4	21.2	40.0	16.5	-	43.5	56.5
30～34歳	97	22.7	26.8	32.0	14.4	4.1	49.5	46.4
35～39歳	110	12.7	28.2	40.9	18.2	-	40.9	59.1
40～44歳	115	13.9	24.3	44.3	16.5	0.9	38.3	60.9
45～49歳	91	16.5	20.9	42.9	18.7	1.1	37.4	61.5
女性	696	11.5	24.6	47.1	15.5	1.3	36.1	62.6
16～19歳	58	10.3	22.4	51.7	12.1	3.4	32.8	63.8
20～24歳	79	16.5	22.8	35.4	25.3	-	39.2	60.8
25～29歳	79	5.1	20.3	50.6	24.1	-	25.3	74.7
30～34歳	88	13.6	27.3	45.5	12.5	1.1	40.9	58.0
35～39歳	141	13.5	25.5	49.6	10.6	0.7	39.0	60.3
40～44歳	151	10.6	24.5	51.7	10.6	2.6	35.1	62.3
45～49歳	100	10.0	27.0	42.0	20.0	1.0	37.0	62.0

## セックスレス化がさらに進行。婚姻関係にある人では41.3%

日本性科学会は1994年にセックスレスについて、「特殊な事情が認められないにもかかわらずカップルの合意した性交あるいはセクシュアル・コンタクト（ペッティング、オーラルセックス、裸での同衾など）が1ヶ月以上なく、その後も長期にわたることが予想される場合」と定義しています。

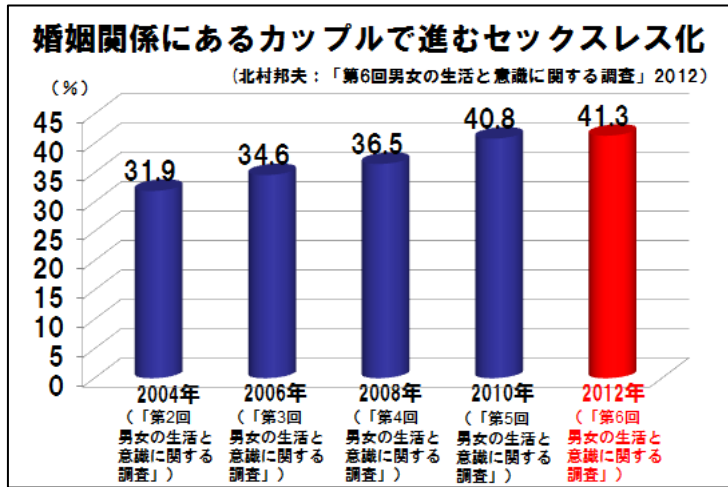
本調査では、これまでにセックスをしたことがある者（1,081人）に、この1ヶ月間のセックス回数を聞いたところ、「1回」15.1%、「2回」13.0%、「3回」7.0%、「4回」5.9%、「5回以上」9.2%という結果でした。一方、「この1ヶ月間は、セックス（性交渉）をしなかった」は44.0%となっています（「無回答」5.8%）。

これを婚姻関係にある回答者（初婚・再婚）に限ってみると41.3%が「セックスレス」の範疇にあり、年齢階級別には婚姻関係にある35～39歳で46.9%と高く、40歳以上では40%を越えています。

2001年に朝日新聞社がインターネットで調査した「夫婦1000人に聞く」でのセックスレス割合は28.0%、「男女の生活と意識に関する調査」2004年、2006年、2008年、2010年がそれぞれ31.9%、34.6%、36.5%、40.8%ということから、ここ2年はややセックスレス化が頭打ち傾向にあるとはいえ、婚姻関係にあるカップルのセックスレス化には歯止めがかかっていません。

婚姻関係にある人がセックスに対して積極的になれない理由を尋ねると、男性の場合、「仕事で疲れている」（28.2%）、「出産後何となく」（17.9%）、「仕事で疲れている」（19.3%）の順でした。これを年齢で見ると、男性では、25～29歳で「出産後何となく」が5割を越え、35歳以上では「仕事で疲れている」がトップ。女性の第一位は25～29歳、35～39歳が「出産後何となく」、30～34歳、40～49歳が「面倒くさい」となっています。35歳以上の女性でも「仕事で疲れている」が目立っています。婚姻関係がない場合には、「相手がない」が男性79.2%、女性68.9%となっています。

当然のことですが、婚姻関係にある者でのセックスレス群とセックスレ



**セックスに対して積極的になれない理由**  
 (北村邦夫：「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012)

	全体	婚姻関係あり		婚姻関係なし	
		男性	女性	男性	女性
合計	476	117	166	101	90
相手がない	31.5	4.3	1.8	79.2	68.9
仕事で疲れている	15.5	28.2	19.3	2.0	6.7
面倒くさい	13.0	12.0	23.5	4.0	5.6
出産後何となく	11.8	17.9	20.5	-	1.1
セックスより趣味等楽しい事がある	3.4	1.7	4.8	4.0	2.2
家が狭い	2.5	6.0	1.8	2.0	-
家族(両親)のように思えるから	2.1	2.6	4.2	-	-
妊娠することへの不安が強い	1.5	0.9	1.2	2.0	2.2
相手の一方的なセックスに不満ある	1.1	0.9	1.2	1.0	1.1
セックスに際して痛みがある	1.1	-	1.2	-	3.3
勃起障害に対する不安がある	0.8	3.4	-	-	-
その他	14.7	19.7	20.5	4.0	8.9
無回答	1.1	2.6	-	2.0	-

「面倒くさい」（12.0%）、女性では「面倒くさい」（23.5%）、

**セックスレス×結婚の利点(利点ありの割合%)**  
 (北村邦夫：「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012)

	セックスレス群	非セックスレス群	統計的有意性
a) 経済的に余裕がもてる	50.9	40.5	NS
b) 社会的信用を得たり、周囲と対等になれる	61.8	62.6	NS
c) 精神的な安らぎの場が得られる	79.6	86.0	NS
d) 愛情を感じている人と暮らせる	83.2	87.7	NS
e) 自分の子どもや家族をもてる	96.8	93.9	NS
f) 性的な充足が得られる	28.8	55.9	P<0.001
g) 生活上便利になる	55.1	58.1	NS
h) 親から独立できる	49.1	50.6	NS
i) 親を安心させたり周囲の期待にこたえられる	73.7	70.4	NS

スでない群を比較しますと、結婚の意義として「性的な充足が得られる」との利点を挙げた割合は28.6%、56.3%、「セックスに関心があるか」に「ある」と回答した割合は50.2%、74.1%、「異性と関わることに「面倒だ」との割合は43.8%、28.7%でありそれぞれ統計的に有意な差を認めています。

## 若年男性の「草食化」は20代に移行？

第5回（2010年）調査でメディアの関心をもっともさらったのが、若年男性の草食化についてでした。具体的には、セックス（性交渉）をすることに、「関心がない」と「嫌悪している」割合を加えると、2008年と2010年との比較で16歳～24歳の男性では2倍ほどに増加している結果がでたからです。女性についても顕著ですが、これは人間の性欲が男性ホルモン支配の下にあることと無関係ではないと思われます。

一方、今回の調査では、「関心がない」と「嫌悪している」割合を加えた場合、男性の16～19歳では29.8%と低下したものの、20～34歳では前回以降増加していることがわかりました。前回草食化とくくられた世代が年齢を重ねた結果とも言えます。男性の30～34歳での割合の急増については、その原因をもう少し探ってみる必要があります。女性では16～19歳で、ここ3回調査の結果、46.9%、58.5%、60.3%と徐々に増加傾向にあることが気になります。若年女性の草食化が一段と進んだとも解釈できます。

一方、「現在、あなたは実際に異性と関わることを面倒だと感じるか」と聞くと、「面倒である+嫌悪している」割合が男性の20～24歳で27.7%、25～29歳で29.4%とやや高めであるが、35～39歳30.0%、45～49歳でも29.7%となっています。女性では35歳以上で5割近くとなるなどその割合が高く、男性との違いを認めています。

20代男性の特徴をさらに見ると、年齢が若く経験年数が短いとはいえ「たばこ離れ」「アルコール離れ」が見て取れます。「もともと吸わない」は20～24歳の52.3%をトップに、25～29歳では40.0%と高く、一週間の飲酒量を聞いても、「飲まない」割合が20～24歳47.7%、25～29歳41.2%と高率になっています。今後もこの傾向が続くかわかりませんが、携帯やスマートフォンの維持にお金がかかりすぎて、たばこやアルコールに金をかける余裕がないのではと指摘する専門家もいます。

しかし、その一方で、20代の女性ではタバコを習慣的に吸っている割合が他の年齢に比べて高いこと、飲酒も「飲

セックス（性交渉）をすることに、「関心がない+嫌悪している」割合の推移（%）  
（北村邦夫：「男女の生活と意識に関する調査」2008、2010、2012）

	2008年	2010年	2012年
<b>男性</b>	10.4	17.7	17.7
16～19歳	17.5	36.1	29.8
20～24歳	11.8	21.5	24.6
25～29歳	8.3	12.1	14.1
30～34歳	8.2	5.8	13.4
35～39歳	9.2	17.3	11.8
40～44歳	13.1	18.4	19.1
45～49歳	8.7	22.1	19.8
<b>女性</b>	37.0	48.4	46.3
16～19歳	46.9	58.5	60.3
20～24歳	25.0	35.0	31.6
25～29歳	25.0	30.6	35.4
30～34歳	30.4	45.8	37.5
35～39歳	35.7	50.0	44.7
40～44歳	47.5	55.6	55.0
45～49歳	45.4	58.6	55.0

## 現在、あなたは実際に異性と関わることを面倒だと感じるか

（北村邦夫：「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012）

	総数	とても面倒である	少し程度面倒である	あまり面倒ではない	まったく面倒ではない	嫌悪している	無回答	面倒である+嫌悪している	面倒ではない
総数	1,306	4.3	30.0	34.3	27.3	0.4	3.8	34.7	61.6
<b>男性</b>									
16～19歳	47	6.4	17.0	38.3	38.3	-	-	23.4	76.6
20～24歳	65	3.1	23.1	35.4	32.3	1.5	4.6	27.7	67.7
25～29歳	85	5.9	23.5	25.9	44.7	-	-	29.4	70.6
30～34歳	97	1.0	21.6	32.0	40.2	-	5.2	22.6	72.2
35～39歳	110	1.8	27.3	35.5	34.5	0.9	-	30.0	70.0
40～44歳	115	0.9	22.6	37.4	34.8	-	4.3	23.5	72.2
45～49歳	91	1.1	28.6	29.7	35.2	-	5.5	29.7	64.8
<b>女性</b>									
16～19歳	58	1.7	22.4	48.3	19.0	1.7	6.9	25.8	67.2
20～24歳	79	3.8	29.1	30.4	35.4	-	1.3	32.9	65.8
25～29歳	79	6.3	31.6	26.6	32.9	-	2.5	37.9	59.5
30～34歳	88	1.1	27.3	40.9	23.9	1.1	5.7	29.5	64.8
35～39歳	141	5.7	40.4	39.7	10.6	0.7	2.8	46.8	50.4
40～44歳	151	8.6	41.7	33.1	9.3	-	7.3	50.3	42.4
45～49歳	100	10.0	41.0	30.0	15.0	-	4.0	51.0	45.0

## タバコを習慣的に吸っているか

（北村邦夫：「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012）

	合計	もともと吸わない	吸ったことはあるが習慣的ではない	過去に習慣的に吸っていた	習慣的に吸っている	不明
<b>全体</b>	1,201	46.0	7.4	15.8	29.3	1.4
<b>男性</b>	563	31.1	6.0	17.4	44.4	1.1
16～19歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～24歳	65	52.3	7.7	3.1	35.4	1.5
25～29歳	85	40.0	7.1	8.2	44.7	0.0
30～34歳	97	26.8	6.2	17.5	47.4	2.1
35～39歳	110	31.8	4.5	20.0	42.7	0.9
40～44歳	115	24.3	7.8	20.9	46.1	0.9
45～49歳	91	19.8	3.3	28.6	47.3	1.1
<b>女性</b>	638	59.2	8.6	14.4	16.0	1.7
16～19歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～24歳	79	67.1	12.7	3.8	16.5	0.0
25～29歳	79	55.7	12.7	11.4	17.7	2.5
30～34歳	88	54.5	12.5	17.0	13.6	2.3
35～39歳	141	58.9	5.0	23.4	10.6	2.1
40～44歳	151	60.3	2.6	15.9	21.2	0.0
45～49歳	100	59.0	13.0	8.0	16.0	4.0

まない」割合が低いことが気になります。  
「若い女性の男性化」は言い過ぎでしょうか。

### 1週間の飲酒量

(北村邦夫：「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012)

	合計	飲まない	1合未満	1~2合未満	2~3合未満	3合以上	不明
全体	1,201	46.3	20.2	10.7	6.7	14.3	1.8
男性	563	34.6	19.7	14.4	8.5	20.8	2.0
16~19歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20~24歳	65	47.7	20.0	12.3	10.8	7.7	1.5
25~29歳	85	41.2	20.0	15.3	5.9	17.6	0.0
30~34歳	97	34.0	17.5	18.6	7.2	19.6	3.1
35~39歳	110	36.4	18.2	10.9	8.2	23.6	2.7
40~44歳	115	28.7	20.9	18.3	8.7	21.7	1.7
45~49歳	91	25.3	22.0	9.9	11.0	29.7	2.2
女性	638	56.6	20.7	7.4	5.0	8.6	1.7
16~19歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20~24歳	79	55.7	31.6	5.1	1.3	6.3	0.0
25~29歳	79	48.1	27.8	7.6	6.3	8.9	1.3
30~34歳	88	60.2	13.6	8.0	4.5	11.4	2.3
35~39歳	141	65.2	15.6	2.8	3.5	10.6	2.1
40~44歳	151	55.0	17.9	9.3	9.9	7.9	0.0
45~49歳	100	51.0	24.0	12.0	2.0	6.0	5.0

## 20代の男性をさらに分析すると

20代男性の草食化が目立つ結果となった今回の調査を通じて、20代男性のうち、セックス（性交渉）に「関心がある」「関心がない+嫌悪している」に2区分して、他の質問項目とのクロス集計を試み、20代男性の特徴をさらに分析することとしました。表は、2群間に統計的に有意な差を認められたものです。その結果、セックスに「関心がない+嫌悪している」

男性の特徴は、結婚に対する利点、特に「精神的な安らぎの場が得られる」「愛情を感じている人と暮らせる」「自分の子どもや家庭をもてる」「性的な充足が得られる」「生活上便利になる」「親から独立できる」「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」など、多くの人が結婚の利点と挙げているこれらの項目のすべてで「利点」を感じる割合が低いことがわかりました。しかも、「中学生の頃の家庭」の楽しかったが、セックスに「関心がある」86.3%、「関心がない+嫌悪している」57.1%と大きな違いがあり、セックスに関心がないのですから、「子どもが欲しい」「(政府の少子化対策の目玉のひとつである) 出産育児一時金制度」についても、「有効だ」という回答が低くなっています。その一方で、「セックスに関心がない+嫌悪している」20代男性では、「関心がある」男性に比べて「中学卒+高校卒」の割合が1.5倍ほどとなっています。これらの結果から、「セックスに関心がない+嫌悪している」20代男性の特徴とは、子どもの頃からの家庭に安らぎや楽しさを覚え、それがためか、結婚に対する期待感が薄く、だから子どもを持つことにも積極的になれない男性。子どもを持つことに意欲がないから国の少子化対策の目玉のひとつである「出産育児一時金制度」にも関心を示さないのではないかと推測されます。最近では、

### (20代の男性)セックス(性交渉)への関心の有無と統計的に有意である項目(%)

(北村邦夫：「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012)

		セックスに関心がある	セックスに関心がない+嫌悪している
N=		119	28
中学生の頃の家庭	楽しかった	86.3%	59.3%
子どもが欲しいか	欲しい	80.3%	57.1%
精神的な安らぎの場が得られる	結婚の利点あり	96.2%	73.7%
愛情を感じている人と暮らせる	結婚の利点あり	97.3%	83.3%
自分の子どもや家庭をもてる	結婚の利点あり	93.8%	66.7%
性的な充足が得られる	結婚の利点あり	94.0%	54.5%
生活上便利になる	結婚の利点あり	88.3%	56.3%
親から独立できる	結婚の利点あり	79.0%	50.0%
親を安心させたり周囲の期待にこたえられる	結婚の利点あり	92.3%	72.2%
出産育児一時金制度	有効だ	95.3%	78.9%
最終学歴	中卒+高卒	43.7%	64.3%

### (20代の男性)セックス(性交渉)を面倒だと考えるかどうかと統計的に有意である項目(%)

(北村邦夫：「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012)

		面倒である+嫌悪している	面倒でない
N=		43	104
中学生の頃の家庭	楽しかった	75.6%	83.5%
父親に対して	産んでくれて、育ててくれて感謝している	85.3%	97.6%
子どもが欲しいか	欲しくない	32.4%	11.2%
経済的に余裕がもてる	結婚の利点あり	18.5%	52.6%
セックス(性交渉)に関心があるか	関心がある	69.8%	85.6%
妊婦健診の公費負担	有効である	72.1%	76.0%
出産育児一時金制度	有効である	76.7%	80.8%
不妊治療に関する経済的負担の軽減	有効である	67.4%	69.2%

短大進学者の増加により、1990年以降、女性の大学卒業が男性を上回っていると言われていました。「セックスに関心がない+嫌悪している」の20代男性の最終学歴が、高学歴女性が増えている今日、恋愛を困難にしているのではないかと考えるのは如何だろうか？

セックス(性交渉)をすることに「面倒である+嫌悪している」「面倒でない」の2群に分けて、20代男性の特徴を探ったが、セックスに「関心がない+嫌悪している」と同様な結果が出ている。

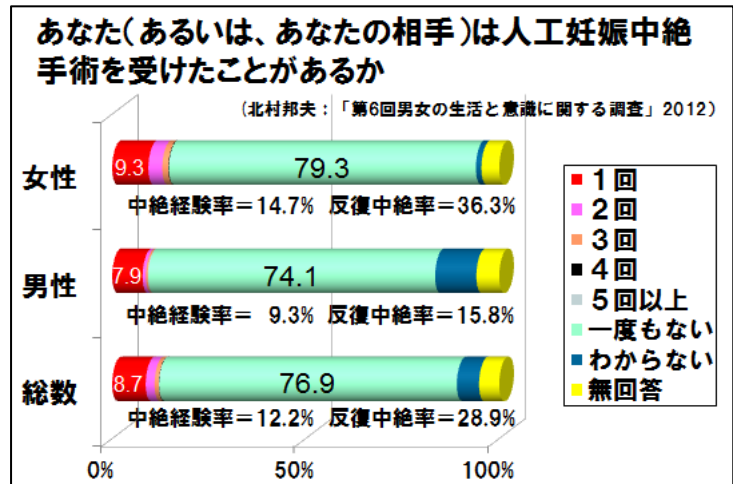
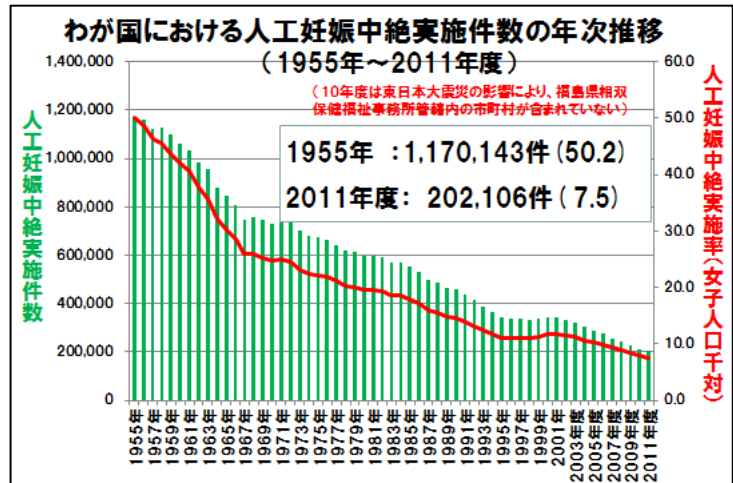
**わが国の女性の人工妊娠中絶経験者は14.7%、そのうち反復中絶者は36.3%で反復中絶者がさらに増加。**

2011年度における人工妊娠中絶実施件数は202,106件、実施率7.5%とともに、過去最低を記録しています。

一方、本調査によれば、人工妊娠中絶の手術を受けたことがある女性は14.7%、このうち反復手術は36.3%という結果でした。この傾向は、過去の調査でも大きく変わることがなく、02年33.1%、04年29.6%、06年23.6%、08年25.4%、10年35.6%となっています。

「最初の人工妊娠中絶手術を受けることを決めた理由」をみますと、男女ともに、「相手と結婚していないので産めない」がトップ30.2%（男性28.1%、女性31.4%）、「経済的な余裕がない」19.5%（男性26.3%、女性15.7%）、「相手との将来を描けない」9.4%（男性7.0%、女性10.8%）でした。男女差が著しい項目は、「自分の仕事・学業を中断したくない」が男女比2.51倍、「相手との将来を描けない」1.54倍、「相手のことが好きでない」2.17倍と女性が多く、「経済的な余裕がない」では1.68倍と男性が高くなっています。

また、「最初の人工妊娠中絶を受ける時の気持ち」を女性に聞くと、「胎児に対して申し訳ない気持ち」、「自分を責める気持ち」「人生において必要な選択である」と続くものの、中絶をリプロダクティブ・ライツ（性と生殖に関する権利）と捉える気持ちがまだまだ薄いことがわかります。



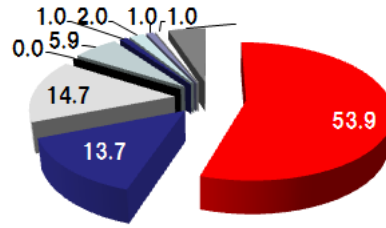
最初の人工妊娠中絶手術を受けることを決めた理由(%)

(北村邦夫：「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012)

	相手と結婚していない	経済的に余裕がない	これ以上子どもは欲しくない	身体が妊娠・出産に耐えられない	自分の仕事・学業を中断したくない	育児に自信がない	相手が特定できない	相手との将来を描けない	相手のことが好きではない	この中ではない	
全体	159	30.2	19.5	6.3	1.9	6.9	3.1	0.6	9.4	3.1	18.9
男性	57	28.1	26.3	5.3	-	3.5	3.5	-	7.0	1.8	24.6
16~19歳	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20~24歳	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
25~29歳	5	20.0	20.0	-	-	-	-	-	20.0	-	40.0
30~34歳	13	30.8	15.4	7.7	-	7.7	-	-	7.7	-	30.8
35~39歳	11	36.4	27.3	-	-	-	-	-	-	-	36.4
40~44歳	15	20.0	33.3	6.7	-	-	-	13.3	13.3	6.7	6.7
45~49歳	10	20.0	40.0	10.0	-	-	-	-	-	-	30.0
女性	102	31.4	15.7	6.9	2.9	8.8	2.9	1.0	10.8	3.9	15.7
16~19歳	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
20~24歳	5	-	20.0	-	-	20.0	-	-	20.0	-	40.0
25~29歳	10	40.0	10.0	-	-	20.0	-	-	-	-	20.0
30~34歳	13	38.5	7.7	-	-	7.7	-	-	23.1	7.7	15.4
35~39歳	21	33.3	23.8	9.5	-	9.5	9.5	-	9.5	-	4.8
40~44歳	25	20.0	28.0	4.0	-	8.0	4.0	4.0	16.0	-	16.0
45~49歳	27	40.7	3.7	14.8	11.1	-	-	-	3.7	3.7	22.2

### 最初の人工妊娠中絶を受ける時の気持ち

(北村邦夫：「第6回男女の生活と意識に関する調査」、2012)



- 胎児に対して申し訳ない気持ち
- 自分を責める気持ち
- 人生において必要な選択である
- 相手に対して申し訳ない気持ち
- 手術への不安
- 相手に対する怒り
- 自分の親に対して申し訳ない気持ち
- これで解放されると思った
- 多くの女性がしているから構わない
- この中にはない

### 性に関わる情報は中学卒業までに知っておきたい

性に関する事柄を16項目挙げ、それぞれについて一般的には何歳ぐらいの時に知るべきだと思うかを聞いてみました。国民の大半はこれら16項目については15歳まで、すなわち義務教育終了までには知るべきと考えています。小学校6年生相当の12歳までにどの回答で、5割を超えているのが「男女の心と身体の違い」「二次性徴、月経、射精などの仕組み」「男女の平等や助け合い」「人と人とのコミュニケーション」。「コンドームの使い方」を中学3年生に教えることは不適切であると烙印を押されかねませんが、15歳までに知るべきと回答した国民の割合は、第1回目(02年)62.8%、第2回目(04年)61.8%、第3回目(06年)68.7%、第4回(08年)68.5%、第5回(10年)67.2%、第6回(12年)65.5%と6割を超える結果となっています。

#### 性に関する以下の事柄について、何歳ぐらいの時に知るべきだと思うか

(北村邦夫：「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012)

	3~5歳	6~9歳	10~12歳	13~15歳	16~18歳	19歳以上	個人に異なる	知る必要はない	無回答	再掲12歳まで	再掲15歳まで
男女の心と身体の違い	6.4	23.6	47.9	13.6	1.1	0.1	3.8	0.4	3.2	77.9	91.4
二次性徴、月経、射精などの仕組み	0.2	11.3	60.4	20.2	1.4	-	3.1	0.5	3.0	71.9	92.1
受精、妊娠、出産、産生のしくみ	0.4	6.5	41.9	38.5	5.3	0.7	3.0	0.5	3.3	48.8	87.3
セックス(性交渉)	0.2	2.4	23.0	43.6	14.9	5.1	7.0	0.8	3.1	25.5	69.1
避妊法	0.1	1.7	22.3	49.8	15.2	2.1	4.7	0.8	3.2	24.0	73.9
人工妊娠中絶	0.2	1.5	16.4	44.9	21.1	3.2	7.2	2.8	3.2	18.0	62.5
エイズとその予防	0.5	2.3	21.5	50.8	16.5	1.5	3.4	0.5	3.1	24.3	75.1
エイズ以外の性感染症とその予防	0.5	2.0	19.4	50.8	18.1	1.7	3.6	0.6	3.3	21.8	72.7
コンドームの使い方	0.3	0.9	15.9	48.5	22.2	2.3	5.8	0.7	3.4	17.2	65.6
多様な性のあり方	0.5	2.4	15.2	39.6	24.7	3.6	8.0	2.5	3.4	18.1	57.7
性的被害の対処法	0.6	2.1	17.2	46.0	19.4	3.1	6.9	1.1	3.5	19.9	65.9
男女間の平等や助け合い	4.4	13.4	34.2	27.3	10.3	2.4	3.8	0.8	3.6	52.0	79.2
結婚	2.1	7.3	22.7	28.5	18.5	6.8	9.8	0.8	3.5	32.0	60.5
離婚	1.1	6.0	20.0	28.1	17.3	4.6	15.5	3.8	3.5	27.2	55.3
人と人とのコミュニケーション	13.1	22.5	31.1	17.4	6.2	1.4	4.4	0.5	3.4	66.7	84.1
性に関する倫理や道徳	1.1	4.2	27.5	40.7	13.2	2.1	7.1	0.5	3.6	32.8	73.4

#### 性に関する以下の事柄について、15歳までに知るべきと思う割合(%)

(北村邦夫：「男女の生活と意識に関する調査」2002、2004、2006、2008、2010、2012)

	2012年	2010年	2008年	2006年	2004年	2002年
男女の心と身体の違い	91.4	92.6	93.7	92.7	88.7	90.3
二次性徴、月経、射精などの仕組み	92.1	93.0	95.0	94.1	89.6	90.8
受精、妊娠、出産、産生のしくみ	87.3	89.8	91.9	90.6	84.9	86.7
セックス(性交渉)	69.1	73.4	74.9	73.2	65.7	-
避妊法	73.9	76.3	77.2	76.5	70.1	75.0
人工妊娠中絶	62.5	65.1	68.0	66.9	61.4	66.8
エイズとその予防	75.1	77.1	77.0	78.1	71.8	75.1
エイズ以外の性感染症とその予防	72.7	74.2	74.7	73.5	68.8	72.3
コンドームの使い方	65.6	67.2	68.5	68.7	61.8	62.8
多様な性のあり方	57.7	59.4	57.5	55.7	50.8	50.6
性的被害の対処法	65.9	66.2	67.7	66.1	60.4	61.0
男女間の平等や助け合い	79.2	80.4	80.0	81.5	75.4	73.1
結婚	60.5	59.5	58.6	57.5	46.6	49.9
離婚	55.3	56.1	53.7	52.7	41.7	45.7
人と人とのコミュニケーション	84.1	86.4	85.9	84.7	80.2	76.0
性に関する倫理や道徳	73.4	76.8	78.1	76.2	72.1	70.9



避妊法選択は、変わらず男性主体この一年間の避妊、「いつも避妊している」「避妊したり、しなかったりしている」は56.9%。避妊法は85.5%がコンドーム、低用量ピルは3.4%。

これまでにセックス（性交渉）をしたことのある男女（1,081人）に、この1年間の避妊の状況を聞いたところ、「いつも避妊している」と答えたのは36.4%（男性38.3%、女性34.8%）、「避妊をしたり、しなかったりしている」者は18.7%（男性18.2%、女性19.1%）、「避妊はしない」という者は19.0%（男性19.2%、女性18.8%）でした。このうち、「いつも避妊している」と「避妊したり、しなかったりしている」と回答した者（594人）に、主な避妊方法を聞くと、男性用コンドーム84.2%（男性88.1%、女性80.6%）、膈外射精（性交中絶）15.1%（男性12.6%、女性17.4%）、オギノ式避妊法4.2%（男性3.1%、女性5.2%）、経口避妊薬（ピル・飲む避妊薬）3.7%（男性3.8%、女性3.5%）の順でした。

これを女性の年齢階級別にみても、避妊を男性に依存する傾向は残念ながら変わっていません。本来、避妊法選択とは、避妊を必要とする者の年齢、性交頻度、妊娠を受容できるかどうか、子ども数、出産間隔、経済力、家の広さ、パートナーの避妊に対する理解と協力度などを加味して決められるべきものです。不妊手術（女性）が40歳以降の女性で行われ、子宮内避妊具も35歳から44歳で使用されてはいますが、若いも若きも「コンドーム」「膈外射精」の避妊法選択となっているのは残念なことではないでしょうか。

毎日新聞社人口問題調査会が行ってきた「全国家族計画世論調査」は既婚女性を対象としていますので、本調査も既婚（初婚・既婚）女性に限ってまとめました（以下表）。

「いつも避妊している」「避妊をしたり、しなかったりしている」人の現在の主な避妊法（北村邦夫：「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012）

	総数	男性	女性
総数	596	286	310
コンドーム	84.2	88.1	80.6
膈外射精法	15.1	12.6	17.4
オギノ式避妊法	4.2	3.1	5.2
経口避妊薬	3.7	3.8	3.5
不妊手術(女性)	1.3	1.0	1.6
基礎体温法	0.8	-	1.6
子宮内避妊具	0.7	0.3	1.0
洗浄法	0.3	0.3	0.3
不妊手術(男性)	0.3	0.7	-
殺精子剤	0.2	0.3	-
無回答	2.5	1.0	3.9

「いつも避妊している」「避妊をしたり、しなかったりしている」人の現在の主な避妊法(女性)

(北村邦夫：「第6回男女の生活と意識に関する調査」2012)

	女性	16~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳
該当数	310	8	43	46	41	57	68	47
コンドーム	80.6	100.0	95.3	87.0	82.9	75.4	73.5	72.3
膈外射精法	17.4	-	7.0	15.2	19.5	22.8	22.1	17.0
オギノ式避妊法	5.2	-	2.3	6.5	2.4	7.0	5.9	6.4
経口避妊薬	3.5	-	2.3	6.5	2.4	5.3	2.9	2.1
基礎体温法	1.6	-	-	-	-	1.8	2.9	4.3
不妊手術(女性)	1.6	-	-	-	-	-	1.5	8.5
洗浄法	0.3	-	-	-	-	1.8	-	-
子宮内避妊具	1.0	-	-	-	-	1.8	2.9	-
殺精子剤	-	-	-	-	-	-	-	-
不妊手術(男性)	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	3.9	-	2.3	2.2	7.3	3.5	4.4	4.3

わが国既婚女性の避妊法の選択（1950年～2012年）

	現在実行している人を対象に																現在行っていない人を対象に			
	本研究						2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2005	2006	2007	2008		
男性用コンドーム	74.0	79.1	79.6	78.6	81.1	80.1	76.3	77.8	77.2	77.1	76.3	73.9	76.3	81.1	80.1	80.3	80.3	80.6		
女性用コンドーム	-	-	0.4	0.4	0.6	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
性交中絶/膈外射精	21.7	17.2	16.1	17.3	17.3	17.6	26.6	1.4	9.6	1.1	1.6	6.6	4.9	6.2	6.9	11.6	12.1			
オギノ式避妊法	5.4	4.3	3.6	3.3	3.0	3.6	6.6	3.4	8.1	1.1	9.2	1.3	6.6	23.1	33.9	40.4	27.4			
女性不妊手術	2.5	2.1	2.9	2.2	2.1	3.9	6.3	4.6	6.3	6.8	6.0	1.4	6.8	2.9	-	6.4	-			
基礎体温法	1.0	2.3	1.6	4.4	4.6	2.6	9.8	3.2	2.9	6.8	1.3	2.0	9.1	-	6.1	-	-			
子宮内避妊具(IUD)	1.0	1.6	1.1	1.6	1.6	2.1	3.1	3.8	3.1	4.9	4.1	6.3	8.3	1.2	-	-	-			
洗浄法	-	-	-	-	-	-	0.4	1.1	0.6	0.6	0.9	1.2	0.6	1.6	1.0	2.1	4.9			
ピル	3.4	2.3	2.2	1.1	1.1	0.1	1.6	1.1	1.3	0.6	1.3	1.0	1.7	3.2	1.1	-	-			
男性不妊手術	-	0.3	1.1	0.4	0.3	0.4	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	2.4	1.6	1.1	-	0.9	-			
避妊薬(経膈/ゼリー/フィルム)	-	0.4	0.4	0.4	0.3	-	0.6	0.3	0.6	0.3	1.2	1.0	0.6	-	-	-	-			
バツリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.2	0.1	0.3	-	1.1	4.3	1.4	1.8			
ゼリー、フィルム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.9	6.4	13.3	16.4			
錠剤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.3	1.8	1.2	14.2			
スポンジ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.3	1.6	-			
糊状物	-	-	-	-	-	-	2.4	2.6	2.6	3.1	2.2	2.6	2.1	1.2	3.8	4.2	10.1			
その他(糊状物)	4.4	3.1	2.6	3	14.0	1.9	-	-	-	-	-	-	-	1.2	3.8	1.1	4.3			
不妊手術	2.5	2.6	2.0	2.6	2.0	2.3	2.4	2.8	2.6	2.0	2.2	2.9	2.4	2.0	6.4	-	-			

(\*)は併発、100から200までは毎日新聞社人口問題調査会、全国家族計画世論調査、2002・04・06・08年・10年・12年のデータは「男性の生活と意識に関する調査」参照

## 緊急避妊法の認知度過去最高

「あなたは、『緊急避妊法』『モーニングアフターピル』『性交後避妊』のいずれかの言葉を聞いたことがありますか」の問いに対して、33.2%（男性27.5%、女性38.1%）が「聞いたことがある」と回答しています。

『ノルレボ®錠』という緊急避妊ピルについては、2011年2月23日に承認、5月24日に発売されていますが、今回の調査での認知度は、第2回調査以降確実に高まっています。驚くべきことは、「過去1年間に緊急避妊法を利用したことがあるか」に対して、4.6%（男性5.4%、女性4.2%）が「ある」と回答したことです。これを15歳から49歳の生殖可能年齢で換算しますと、実に42万人余の女性が使用していることがわかりました。

## モーニングアフターピル、性交後避妊、緊急避妊法の言葉聞いたことあるか

（北村邦夫：「男女の生活と意識に関する調査」 2004,2006, 2008, 2010, 2012）

	第6回(2012年)			第5回(2010年)			第4回(2008年)			第3回(2006年)			第2回(2004年)		
	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性
総数(件)	1,306	610	696	1,540	671	869	1,468	647	821	1,409	636	773	1,580	690	890
聞いたことがある(%)	33.2	27.5	38.1	30.0	23.1	35.3	28.5	26.4	30.2	24.3	20.8	27.3	20.8	17.0	23.7
聞いたことがない(%)	63.4	69.7	57.9	68.2	75.6	62.5	67.4	69.2	65.9	72.2	76.1	69.0	75.8	79.0	73.4
無回答(%)	3.4	2.8	4.0	1.8	1.3	2.2	4.1	4.3	3.9	3.5	3.1	3.8	3.4	4.1	2.9

本調査結果に対するお問い合わせ先は、一般社団法人日本家族計画協会家族計画研究センターの北村邦夫([kitamura@jfpa.or.jp](mailto:kitamura@jfpa.or.jp))まで 電話 03-3235-2694、fax 03-3269-6294